

第3回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成13年10月25日 19:00～20:40

市民活動サポートセンター
フレキシブルスペース

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。夏のスタンプラリー報告もあわせて行った。

2 審議事項

- ・市民活動フェアの参加団体締切りを15日としていたが、各団体が団体内で検討する期間を確保するため、可能な限り延ばすこととした。
- ・その他は提案どおり承認された。

3 その他

- ・次回運営委員会 1月10日(木)

[意見概要]

1 報告事項(2) 利用状況について(資料2)

(今城委員)

- ・印刷機等の収入は雑収入として市に入るか。その収入をすぐに経費に充てることができるか。

(事務局)

- ・雑入として入れている。サポートセンター費の特定財源となっているが、歳入と歳出は別になっているので、多く入った分を経費に充てるということはできない。

(松尾委員)

- ・久里浜市民活動サポートセンターは誰が運営しているか。

(事務局)

- ・利用票の受付、印刷機等の軽微なメンテナンス等、役所屋久里浜店のスタッフが行っている。

(道畑委員)

- ・9月の利用者数が2,500人を超えたとのことだが、1日平均にすると80人程度でまだ少ないと感じる。月5,000人ぐらいの利用を目標に考えたい。

(3) 市民協働推進セミナーについて(資料3)

(新井委員)

- ・市民協働がまだまだ根付いていない現状の中、運営委員会としては、このような啓発事業への参加を広く呼びかけていく必要があると考える。

(松尾委員)

- ・申し込みはどのようにするか。

(事務局)

- ・ワークショップがあるので、事前に活動経験等を聞く参加申込書を作る予定である。当初の申し込みは往復はがきでと考えているが、詳しくはこれから詰めていく。

(松尾委員)

- ・ワークショップ形式でとよく聞くが実際に参加してみるとワークショップになっていない場合がよくあるので、ワークショップについてよく研究して実施してほしい。

(4) 夏の市民活動スタンプラリーについて (資料7)

(遠藤委員)

- ・記念品交換期間が終わってから反省会をすべきとの意見がある (資料 7 p5) が、どのような意味があるか。

(事務局)

- ・記念品交換期間が終わってからであれば最終的に何人が記念品交換したかを示すことが可能だったということである。反省会の日程は、スタンプラリー開始前の実行委員会で、スタンプラリー期間終了後なるべく早く反省会を開催した方が良いという判断から決定した事項であり、実行委員の1人からこのような意見があったことについては事務局として困惑している。実行委員に主体性を持ってもらえなかったという点は課題である。

(新井委員)

- ・反省点は次回に生かしていく必要があるが、「反省会」とすると省みてしまい、悪かったところばかりに目が行ってしまう。私たちは「まとめ」という言葉をよく使っている。良い面にも目を向ける前向きなまとめ方が必要である。

2 (1) 市民活動フェアについて (資料4)

(江口委員)

- ・締切りが11月15日となっているが期間が短い。各団体がそれぞれの団体に検討し応募するまでの期間として1か月はほしい。

(松尾委員)

- ・私たちの団体は月末に定例会を行っており、11月末締め切りでないと検討できない。

(水谷委員)

- ・会を開催しなくても電話等で役員が連絡し合う方法もある。柔軟に対応できないか。

(江口委員)

- ・団体が大きくなるほど、きちんと協議して意思決定する必要がでてくる。

(新井委員)

- ・状況に応じて今年は参加せずに来年に向けて検討しておくという選択もある。
- ・今まで参加していない団体が参加できるような働き掛け、工夫が必要である。
- ・事務局は、締め切りを延ばすことによる影響を検討し、できる範囲で延ばすよう考えてほしい。

(江口委員)

- ・サポートセンターを知らないという人が西地区に多いようなので、パネル展で出されたものを西地区で展示することを検討してほしい。

(2) 市民公益活動団体について (資料5)

(新井委員)

- ・No.174「父と暮らせば」を観る会よこすか、No.250 三浦半島フォーラム実行委員会は、実行委員会が解散しているのではないか。

(事務局)

- ・調査し、解散していれば削除する。

(遠藤委員)

- ・No.53 書く人の会と No.342 ヨコスカふだん記と活動内容はほぼ同じようだが、判断は違っている。

(事務局)

- ・書く人の会は、識字運動支援のための使用済み切手収集を行っているほか、夏のスタンプラリーで一般の人を対象に新聞投稿を書く勉強会を行った。書くことで社会の課題に対して意見を述べていく、社会を変えていくということを会の基本としているという主張があり、公益団体として判断した。

(3) まちづくり電子フォーラム参加者養成のためのパソコンルームの活用について

(事務局)

- ・市民生活課で行っているまちづくり電子フォーラムに参加する市民を増やし市民協働を一層進めるため、まちづくり電子フォーラムに参加する方法を学ぶ講座を市民公益活動団体以外にも対象を広げ、サポートセンターのパソコンルームで実施したい。ー承認ー

(4) 利用者ミーティングの開催について (資料6)

(新井委員)

- ・私自身が一利用者からの提案を受け、今回提案することになった。

(今城委員)

- ・利用する人が何を求めているか、より魅力ある施設にするために何をすべきか意見を出し合うことは意義がある。大賛成である。

(遠藤委員)

- ・運営委員も傍聴して良いか。

(江口委員)

- ・傍聴ではなく、主体的にかかわっていく必要がある。

その他

(安倍委員)

- ・サポートセンターの周知は今後も重点的にやっていく必要がある。また、利用者の交流の場は設定が難しいと思うがつくっていくべきである。
- ・先ほど意見が出たように、西地域への情報が行き渡らないという事実はあるようだ。

(今城委員)

- ・西地域の人には知らないから来ないのではなく、遠いから来ないと思う。サポートセンターのような施設は数多くあると良い。既存の施設を活用しながら、サポートセンターの機能を副次的に併せ持つ施設を考えていく必要がある。

(飯島委員)

- ・武山市民プラザは青少年の家と自治活動センターが併設されユニークな施設で有効活用されている。

(遠藤委員)

- ・西地区の要望を聞いてみてはどうか。

(水谷委員)

- ・西地区は、交通の便が悪い、渋滞等の問題はあるが、市民活動を行う上での支障にはなっていない。

(百瀬委員)

- ・市民活動団体が利用できる施設はサポートセンターの他にも公民館、行政センター、町内会館等いろいろあり、横須賀は周辺市に比べても充実している。どんどん人口が増え、施設も増やすというのは緑地保全の意味から問題である。

(高山委員)

- ・私たちのグループは、小田原方面のメンバーもおおり、いつも県民活動サポートセンターを利用して、ほとんどここは利用していない。いつも見られているようで入りにくい感じがする。

(根本委員)

- ・他地域の青年会議所のメンバーを案内し、PR に努めている。3 月頃にタイムカプセル開封事業でサポートセンターの展示コーナーを利用しようと考えている。

(岩崎委員)

- ・新しい体制でこれからやろうという事業が審議事項であがっているが、事業を実施していく上で日程的な問題もあるので、ある程度スタッフがやりやすいよう、個々の事業については運営委員会にかけなくても事後承諾で進めていくことができるようにしてはどうか。

(松尾委員)

- ・今回は 10 月から運営に携わったこともあり期間的に仕方がない部分もあると思うが、今後について事後承諾という形では運営委員会の意味がない。

(事務局)

- ・市民協働推進条例に基づく登録制度を開始しており、登録団体の公開をサポートセンターでも行っている。市から事業の委託を受けるようとする団体は登録をお願いしたい。